

性の低い軽い土です。この2つに、「肥料効果型」の堆肥と「根づくり効果型」の堆肥を施し、ミズナの育ちを比べてみました。堆肥は、前者が窒素が多くC/N比が低い豚糞堆肥や鶏糞堆肥、後者が窒素が少なくC/N比の高い落ち葉系堆肥です。施肥量は、10a相当で窒素20kgとし、堆肥と化成肥料それぞれから10kgとしています。

●重い土には、堆肥の根づくり効果を積極的に活かそう

左頁の表に示すように灰色低地土は、すべての試験区で黒ぼく土より収量が多く、堆肥の根づくり効果が有効に働いています。

黒ぼく土では、根づくり効果型の堆肥は土をさらに軽く、乾きやすくするため生育が劣り、逆に肥料効果型の堆肥の効果が出ています。根の割合は、全



重い土。硬くしまつて通気性の悪い灰色低地土



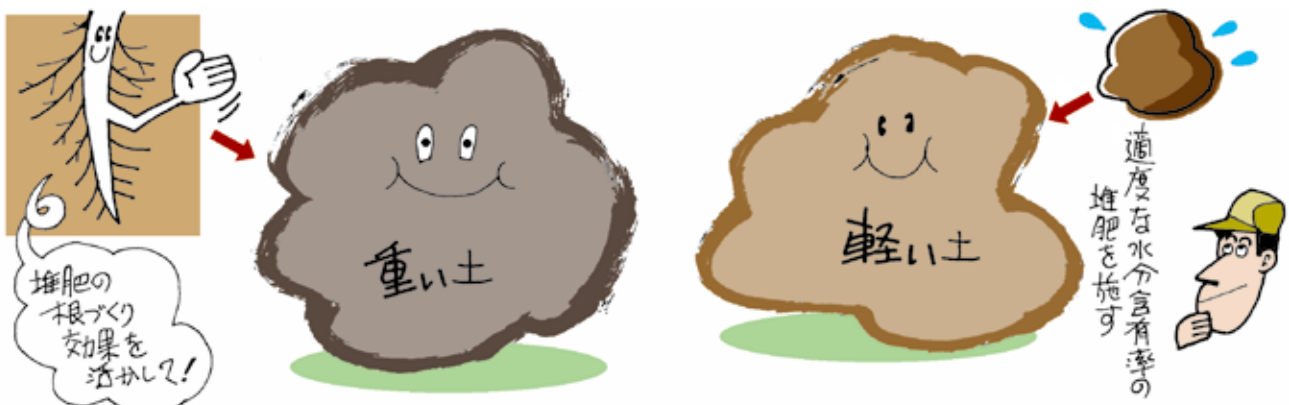
軽い土。さらさらとして乾燥しやすい黒ぼく土



体に黒ぼく土が高く、とくに根づくり効果型堆肥を施したばあいには高くなっていることに注目してください。

以上から、重い土では堆肥の根づくり効果を積極的に活かして根を深く張らせ、細根・根毛を増やして、肥料を有効に効かせていくことがおすすめです。

軽い土では、適度な水分含有率の堆肥を施す、土が湿っているときに施して保水させてマルチするなどの乾燥対策により、堆肥の根づくり効果・肥料効果を発揮させることが有効です。また、堆肥施用後に土を鎮圧して乾燥を防止することなどにより、効果をあげている例もあります。



重い土、軽い土での堆肥活用の工夫